

新規指標の設定の考え方

1 食育を意識して活動している「共食の場」の割合（目標：80%）

(1) 新規設定の理由

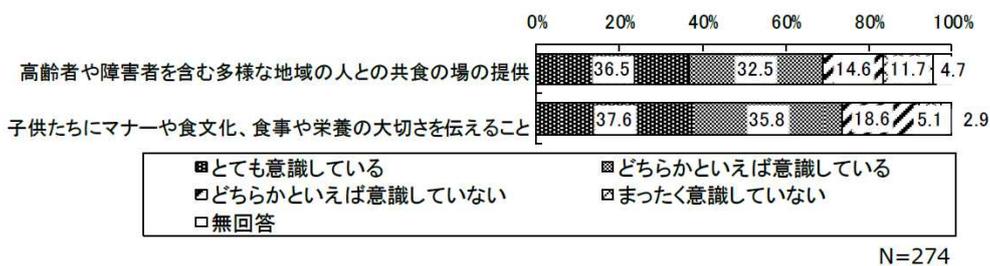
地域共生社会の実現に向けて、「共食の場」での食育を推進していくため

(2) 指標の考え方

国が全国の子ども食堂を対象に行ったアンケート調査結果を参考に設定

(3) 子供食堂の活動目的として意識していること

◆70%前後の子供食堂が、「多様な人との共食」や「マナーや食文化、食事や栄養の大切さを教えること」について「とても意識している」又は「どちらかといえば意識している」と答えました。



農林水産省「平成29年度食育活動の全国展開委託事業」より

(3) 目標値の考え方

- 上記調査結果では、70%前後の食堂が、「マナーや食文化、食事や栄養の大切さを教えること」等について「意識している」と回答。
- 第4次青森県食育推進計画（案）において、「共食の場」における食育活動を推進していくこととしているため、目標を全国の状況より高い80%に設定。

2 果物の摂取量（成人）（目標：111.3g → 200g）

(1) 新規設定の理由

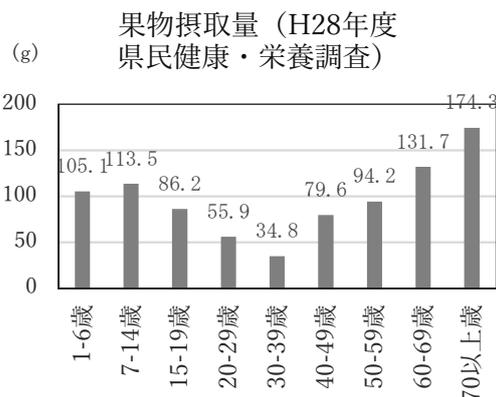
若年層を中心に、りんごをはじめとする果物の消費が減少しているため

(2) 指標の考え方

「野菜の摂取量（成人）」と同様に分かりやすく設定

(3) 目標値の考え方

食事バランスガイド（平成17年に厚生労働省・農林水産省で作成）で示された果物の摂取量（200g）を目標値に設定。



<参考>

「健康あおもり21（第2次）」では、がん予防の観点から、果物摂取量100g未満の者の割合を減少させる目標を設定している。

〔H28〕59.5%→〔R5〕28%